

# 介護老人保健施設しおん

症 例 概 要    ご利用者    : K様

利用期間    : R6年4月～現在

既往 : 慢性心不全・不整脈・心房細動・高血圧・腰椎化膿性脊椎炎・疼痛・感覚機能障害・栄養障害

経過 : 令和5年11月に腸炎となりA病院へ20日ほど入院。退院後に腰痛を訴えていた。12月CRP高値で化膿性脊椎炎を認められ再度入院。CRPは10程度だったが、L4の椎体が溶骨性に変化が強く除圧固定と排膿目的で手術の予定であったが、高齢と一時的に心不全傾向があり手術困難の判断となり保存的加療となる。その後現在のADLでの自宅復帰は難しい為リハビリを継続したい為、介護老人保健施設しおんへの入所を希望される。

## 内 容

入所当初、ご本人は車椅子を使用しながら自立して行動できていたが、日中はテレビ鑑賞が中心で、特に熱中できる趣味は見られなかった。令和7年4月、ユニット内で希望者に対しビーズアクセサリー作りを教える活動が始まり、最初にご本人へ声をかけたところ参加に至った。もともと物づくりに抵抗はなく、職員と空き時間に練習を重ねる中で技術を習得し、やがて職員の声掛けがなくても「今日もやりましょう」と自ら意欲的に取り組む姿が見られるようになった。こうした前向きな姿勢は周囲にも影響を与え、見学していた他ご利用者が徐々に加わり、ご本人と職員が協力して教えることでご参加者が増加し、活動は広がっていった。5月には制作したアクセサリーを施設の夏祭りで販売し、その収益を募金する計画が立てられ、施設および利用者の理解と協力のもと実施された。ご本人は制作日に欠かさず参加し、継続的に作品作りに励むとともに、リハビリ中にも活動の話題を口にするなど、生活全体への意欲向上が見られた。心不全など体調面の不安もあったため、看護と連携し無理のないペースで取り組みを継続した。7月には目標であった50個の制作を達成し、そのうち半数をご本人が手掛けるなど中心的な役割を果たした。夏祭り当日の販売は好調で、作品は完売し、寄付も予想以上に集まった。活動終了後も継続を望む声上がり、取り組みは他ユニットにも広がり施設全体へと発展、社会貢献にも繋がった。その後もご本人の創作意欲は継続し、「孫に自分でデザインしたブレスレットを贈りたい」との希望を実現。面会時に手渡し大変喜ばれたことで、ご本人の表情にも大きな満足感が見られた。本活動は、ご本人にとってやりがいと楽しみをもたらし、誰かのために取り組む喜びを実感できる機会となった。